

令和7年 金沢市教育委員会議第11回定例会 会議録

1 日 時 令和7年11月26日（水）

開会 13時30分

閉会 14時25分

2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員（7名）

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子
〃	長 澤 裕 子
〃	櫻 吉 啓 介
〃	山 本 英 輔

4 欠席委員（なし）

事務局	教育次長	堀 場 喜一郎
	担当次長（兼）教育総務課長	前 多 洋 一
	教育総務課長補佐	内 山 善 之
	担当次長（兼）学校職員課長	中 田 知 邦
	学校職員課担当課長・管理主事（兼）課長補佐	中 田 義 成
	担当次長（部活動地域移行担当）（兼）学校指導課長	貞 廣 賢 了
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	藤 田 亮 治
	市立工業高校事務局長	今 井 信 也
	生涯学習課長（部活動地域移行担当）	小 川 晶 子
	図書館総務課長（兼）玉川図書館長	岩 崎 友 代
	教育プラザ総括施設長	熊 谷 有紀子
	（兼）学校教育センター所長	
	（兼）特別支援教育サポートセンター所長	

5 案 件

議案第19号 令和6年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について
(教育総務課)

非 議案第20号 金沢市社会教育委員の委嘱等について
(生涯学習課)

報告第21号 全州工業高等学校からの訪問団受入について(市立工業高等学校事務局)

報告第22号 金沢市立工業高等学校の台湾修学旅行の実施について
(市立工業高等学校事務局)

報告第23号 金沢方式及び地域コミュニティ活動周知パンフレット「金沢のコミュニティ～地域活動でつながろう～」について
(生涯学習課)

そ の 他

(1) 学びの多様化学校設置検討委員会からの答申について

(2) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議挨拶に続いて、傍聴希望者5名について協議し、傍聴を許可した。次に、会議録署名委員に丸山委員を指名した。本日の議題について、野口教育長が議案第20号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第19号、報告第21号、報告第22号、報告第23号について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、12月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第20号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 12月の定例会議の日程：令和7年12月17日（水）13：30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第19号 令和6年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について（教育総務課）

（説明の概要）別冊資料「金沢市教育委員会事務事業点検・評価報告書（令和6年度執行分）（案）」は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、令和6年度における教育委員会所管の事務の管理・執行状況について点検評価を行い、報告書にまとめたものである。内容は、9月の定例教育委員会議の後に開催した点検評価会議において、教育委員各位にご意見を頂いたものとなる。その後、学識経験者のご意見として、金沢大学准教授の加藤隆弘先生と、本市社会教育委員で北陸学院大学教授の俵希實先生の両名に確認いただき、ご意見を頂戴している。

加藤先生からは、「実施されたいずれの事業も、これから社会をより良く創造する私たちには欠かせないものであり、より良くなりそうな事柄があればチャレンジする、そのような創造的な取り組みを行うためにも、この点検評価を有効に活用いただきたい」というご意見を頂いている。俵先生からは、「事業を実施していく上での課題は、担い手の育成、現代社会に合った運営方法、事業の周知、市民の関心に基づいた企画といえる。どの課題も既に検討を重ねていると思うが、今後も考え続けていく努力が必要である」というご意見を頂いてる。

3～10ページは、教育委員会の活動状況等について記載している。

教育委員会開催に際しての運営上の工夫として、事前に各議案等の内容検討を行うために、3日前までに議案書等の送付を行うとともに、一部の非公開案件を除き、会議の原則公開と会議終了後のホームページへの資料掲載など、透明性の確保や情報発信に努めている。

教育委員会の活動では、学校訪問を小・中学校24校で実施し、各学校の活動状況や施設環境の把握、授業参観や校長をはじめとする教職員との意見交換などを通して、教育現場の実情把握に努め、各種教育施策の推進を図ったところである。

また教育行政に関する他都市の視察、教育委員会連合会などの活動を通して、全国的な動向の把握や情報収集に努めているほか、市立工業高校教員採用候補者等の選考、金沢市や金沢市教育委員会等が主催する各種行事等への参加を通して、本市教育行政のさらなる推進を図っている。

金沢市総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会で構成される会議である。令和6年度は2回、それぞれ記載のテーマで開催し、本市の実情に応じた教育振興を図るための施策等について市長と意見交換を行った。

7ページには本市の教育行政の基本的方針である「金沢市教育行政大綱」の五つの基本方針を掲載し、8～9ページには「金沢市学校教育振興基本計画」及び「金沢市生涯学習振興基本計画」の基本理念等を記載している。

点検・評価及び今後の方向性としては、今後も引き続き教育委員会議での慎重かつ十分な審議とともに、教育行政の透明化と情報発信に努めること、教職員等との意見交換の機会をさらに確保し、教育現場の課題の把握を図ると同時に、実情を反映した施策を展開すること、また本市の教育振興の両輪となる「金沢市学校教育振興基本計画」と「金沢市生涯学習振興基本計画」の実践に努め、教育行政に関する施策を総合的に推進することとしている。

11～12ページは、令和6年度の各主要事業の評価をまとめたものである。金沢市学校教育振興基本計画における八つの方向性に基づく16の事業、金沢市生涯学習振興基本計画における五つの方向性に基づく12の事業の評価となっている。学校教育の分野では16事業中15事業を「十分達成できた」の「A」、1事業を「おおむね達成できた」の「B」とした。生涯学習の分野では12事業中7事業を「A」、5事業を「B」とした。

13ページ以降は、それぞれの事業の個別評価票となる。本日は事業の個別評価の内容について、9月以降お気付きの点等があればご意見を賜りたい。

本報告書は、ご承認いただければ速やかに市議会議長宛てに提出したい。

野口教育長

加藤先生のコメントが全部で5ブロック分あるのですが、3ブロック目の後半に、「昨年度に比べてB評価の項目が増えているが、これは正当に点検・評価が行われた証とも言える。今後も点検・評価を生かした事業の改善に取り組んでいただきたい」とまとめています。ご意見をいただいた加藤先生、俵先生ともにしっかりと見ていただいたのではないかと思いました。

○ 報告第21号 全州工業高等学校からの訪問団受入について（市立工業高等学校事務局）

（説明の概要）議案書6ページ。企業の海外進出や産業のグローバル化が進展している中、本校における教育活動の指針である金沢型工業教育モデルの実践に当たり、海外姉妹校などの交流を通じて生徒の国際理解を深める活動に取り組んでいるところである。

全州工業高等学校との交流は、世界的なコロナウイルスの蔓延等の事情により、令和3年度を最後に途絶えていたが、このたび4年ぶりに交流を再開し、同校の生徒と教員からなる訪問団を受け入れた。去る11月19日から20日にかけて、全州工業高等学校の生徒8名と校長を含む教員3名が本校を訪れ、両校の生徒が測量やプログラミングの実習など、土木や電子情報に係る課題に協力して取り組み、意見を交わした。来年度以降も定期的に双方の学校を訪問するなど、さらなる交流を深めていきたい。

長澤委員

授業の様子など、可能な範囲でお知らせいただけますか。

今井市工高事務局長

全州から土木と電子情報を専攻する学生が参加しており、本校の同様の学科の生徒と交流しました。授業については、建築や土木技術の基礎となる測量を互いに競い合うような内容や、電子情報では、点字ブロックに電子的な情報を組み込み、目の不自由な方の案内に活用するなどの課題研究をしており、これらを全州の生徒と協働して行いました。

長澤委員

ゲーム的な感覚を取り入れることで、授業がすごく活性化したり、参加している生徒さんたちが前のめりに課題に向き合えるところがとても良いと思いました。

今井市工高事務局長

ありがとうございます。今ほどご指摘いただいたゲーム的な要素という視点も含め感じたことは、授業を見ておりますと、生徒同士が通訳を介さなくとも、スマートフォンの翻訳機能等を活用して、私たちが想像するより円滑にコミュニケーションを取っていることに感心いたしました。こういった点を参考にしながら来年度以降の交流につなげていきたいと考えて

おります。

大島委員

参考までにお聞きしたいのですが、生徒の国際理解を深めて国際社会への対応力を養うということで非常に有意義な事業ではないかと思っています。今回は受け入れなのですが、派遣も行っているのかどうかということと、その他に海外で姉妹校が存在するのかどうか、教えてください。

今井市工高事務局長

まず、これまでの海外姉妹校等との交流では、韓国の全州工業高等学校のほかに、中国の大連市技師学院、同じく中国の蘇州高等職業技術学校との実績があります。今回4年ぶりに全州との交流を再開し、全州の生徒と教員を迎えたのですが、今後は当方からも全州へ伺ったり、そのほかの学校についても機会があれば互いに行き来することで、生徒の国際的な理解や経験を深めていきたいと考えております。

○ 報告第22号 金沢市立工業高等学校の台湾修学旅行の実施について（市立工業高等学校事務局）

（説明の概要）議案書8ページ。国際理解教育やものづくり教育、ふるさと教育のさらなる充実を図る観点から、今年度より台湾への修学旅行を実施する。先進的なものづくり技術や本市ゆかりの偉人の功績を学ぶためにふさわしい環境の下で、生徒にとって高い研修効果が期待されると考えている。

本校の2年生240名を2隊に分けての出発となり、本年12月1日から4日、そして12月2日から5日にかけて、それぞれ3泊4日の行程となる。資料に記載した科別の先進企業等見学のほか、台湾の水利事業に尽くした八田與一技師の記念館や烏山頭ダムの見学等を盛り込んだ内容を予定している。今後もグローバルな視野に立って多様な文化を尊重し、生徒の相互理解の精神を培うことができるよう、国際的な体験学習の機会を推進していく。

木村委員

以前、台湾修学旅行の話が出たときに、費用についてまだクエスチョンマークというか、保護者の負担についてまだはっきりしていないということをお聞きしたように覚えているのですが、それはクリアできたのですか。

今井市工高事務局長

以前、修学旅行先の変更についてご報告した時点では、まだ詳細な日程や具体的の経費について検討段階だったと存じます。お尋ねの費用については、旅行先を沖縄から海外の台湾へ変更したこともありまして、必要な総額は若干増えております。これについては、積み立て期間の延長や、授業で使用する教材や被服等の諸会費を総合的に見直すなどの配慮を重ねるなど、保護者への負担を軽減できるよう努めてまいりました。

木村委員

分かりました。市立工業のPRとして、先ほどの訪問団の受け入れなど、これから本当に国際化というか、修学旅行も台湾を訪れるということが、宣伝になるのではないかと思います。それを思って応募してくれる人たちが増えることを願っています。

今井市工高事務局長

報道などによって広くお知りおきいただいていることもありますし、何より、私たちが目指す協働的な学びというのは多様な他者と関わりながら課題を解決する力を培っていくことですので、今般のような国際交流は、その最たるものだと考えております。今後もこういった交流を進めて生徒の学びを深めていくように、また取り組みに関するPRにも努めていきたいと思います。

丸山委員

現地大学生との交流プログラムについて、あえて大学生と交流する理由は何かありますか。

今井市工高事務局長

修学旅行というと、今回も240人を二つの隊に分けて120人での行動が基本となるため、終始団体で動くイメージが強いと思われますが、これは生徒が少人数のグループに分かれて、現地の大学生に地元の観光名所や文化施設を案内してもらう中で交流を図ることを目的としています。先ほど申し上げたような、多様な他者と交わり、様々な文化に触れる機会を、少人数のグループで、生徒たち一人一人に提供できるようにという狙いもあります。今回ご提案を頂いた旅行会社が十数年前から行っている実績のあるプログラムであり、それぞれの学校の修学旅行において高い効果を得ていると伺い、取り入れた次第です。

丸山委員

今回初めてということですか。

今井市工高事務局長

はい。海外への修学旅行自体が本校は初めてでございます。なにぶん引率する教員も生徒も初めてのことが多いため、事前に同じ行程で経路や内容の安全を確認するための予察を実施するなど、修学旅行に向けた準備を万全に進めてまいりました。

○ 報告第23号 金沢方式及び地域コミュニティ活動周知パンフレット「金沢のコミュニティ～地域活動でつながろう～」について（生涯学習課）

（説明の概要）議案書10ページ。このたび、本市地域コミュニティの特徴や金沢方式による公民館活動などを市民に広く周知するためのパンフレットを作成、配布する。これは、昨年度開催された金沢方式あり方検討懇話会において、金沢の地域コミュニティの理念、特徴や活動内容について、周知・広報の強化が必要とのご意見があったことを踏まえ、公民館を所管する教育委員会生涯学習課と地域コミュニティを所管する市民局市民協働推進課が連携し、実施するものである。

パンフレットは、金沢市内を金沢市町会連合会のブロック割りに対応した9地域に分け、それぞれの区域内の公民会や町会連合会などの活動を紹介する9種類を作成して、1月までに市内全戸に配布する。

お手元に9種類のパンフレットをご用意している。2～3ページの金沢の地域コミュニティの特徴と、裏表紙にあるコミュニティ活動への参加呼びかけについては9地域共通の内容であり、表紙と4～7ページの町会連合会等の活動紹介、公民館の活動紹介については地域ごとの内容となっている。活動紹介には写真を多く掲載し、見る方の興味を引くことで活動の様子や楽しさが伝わるよう工夫した。

なお、本市生涯学習情報サイト「まなびの広場」や電子回覧板「結ネット」で、このパンフレットの内容のデジタル配信も行っており、引き続き公民館活動に関する情報発信強化にも取り組んでいきたい。

丸山委員

これは今後も継続的に行っていく予定ですか。

小川生涯学習課長

パンフレットを作成して各戸配布することに関しては、毎年度実施するにはかなり予算が必要になるため、パンフレットの形での作成配布については取りあえず今年度実施して、反響等を見ながら今後については検討していきたいと思っておりますが、今ほどご報告しましたようにホームページ、電子での配信もしております。これについてはそれほど予算をかけずに新しい内容のご紹介をしていくことも可能と考えております。

櫻吉委員

自分の地域の情報が出ていて、すごく分かりやすくて素敵なパンフレットだなと思いました。今年度の事務事業報告の俵先生の講評にも、地域コミュニティの活性化する上でボランティアの数がすごく減っていて確保が

大変だと書いてありました。実際こうしたことに携わる人を集めることはすごく大変だと思います。こういうパンフレットもその入り口だと思いますが、他にボランティアの方を取り込むための工夫は考えられていますか。

小川生涯学習課長

おっしゃられたように、ボランティアや地域コミュニティ活動の担い手の確保が大きな課題になっていると思います。俵先生のご指摘にもありましたけれども、公民館の活動に参加していただく方が年齢の高い方に偏りがちという傾向が、生涯学習課で昨年度実施した生涯学習に関する市民調査からも見えておりますので、取り組みとしてはできるだけ若い世代、今はあまり公民館活動や地域活動に参加していない世代に公民館に足を向けていただけけるような取り組みが必要と考えております。

今年度は新規の取り組みとして、公民館で子育てに関する勉強会を開催する事業を実施し、子育て世代が公民館に足を運び、公民館の活動を知つていただくきっかけにもする活動を行っております。若い世代や学生さんにも足を運んでいただけるような取り組みを今後も続けていきたいと思っています。

櫻吉委員

今まで実際に行っている活動がありますよね。例えば二十歳のつどいは毎年必ずあると思うのですが、そういう場などで募集はされているのですか。

小川生涯学習課長

二十歳のつどいは、金沢市の場合は公民館が主体になって開催していたり、地域内の若い方に公民館を知つてもらう一つの大きなきっかけになっていると思うのですが、それがなかなか直接的に公民館に足を運ぶきっかけ、あるいは公民館活動をうまく周知する場にできているかというと、弱い部分があるかと思っております。特に高校生、大学生になると、地域の中で活動する機会が小中学生の頃に比べて減ってしまいます。住んでいる地域の外で活動、生活する時間が増えるので、若い世代が公民館や地域の活動に参加しにくいことが大きな課題だと考えておりますので、おっしゃっていただいたように、若い方が集まる機会を活用して公民館活動のPRができるように考えていきたいと思います。

長澤委員

とても素敵なパンフレットだと思います。写真の全てに撮影日が記載されているのもとても良いことだと思います。地域の方々が「私、写っているわ」「私の知っている人が写っているわ」という形で、興味を持って手に取られることが想像できます。

先ほどのご説明では、今後は予算もわからない市のホームページなどで紹介していくとのことでしたので、市のホームページに行けばこういった情報がどんどん更新されていくということを、このパンフレットにも載せておいていただけたらいいなと思いました。もう出来上がっているのかもしれません。

地域の活動はどんどん更新されていきますから、更新されている活動をまた市民の方々が積極的に見るような仕組みが作られることによって、地域の活性化にもつながっていくと思いました。ホームページに案内する、あるいは市のLINEなどからも入っていける形にすると、市民の方々が柔軟に新しい情報にアクセスできるようになって、笑顔がいっぱい増えてくるのではないかと思いました。

小川生涯学習課長

今おっしゃっていただいたLINEなどのSNSの活用も検討して、常に情報にアクセスしていただけるような工夫をしたいと思います。

木村委員

公民館をよく利用なさる方は、先ほどもおっしゃったとおり高齢化していると思いますし、実際私が住んでいる地区では結構高齢化が進んでいま

す。「結ネットは取り入れられていますか」と聞かれたときに、ちょっと待ってと考えなければいけない感じもありますので、やはり自分で見られるのがいいのではないかと思います。費用がかかるという点では大変だと思いますが、私は先ほどの事務事業点検の報告書を見たときに、B評価のところと関連して、やはり魅力のある公民館が少ないよううに思うのです。全部ということではなくて非常に活発な公民館もありますが、そうでもない公民館もあるのです。ただ、何をやっているのかあまり分からぬよう、お年寄りの集まりみたいなことに使っているというのが私たちの知っている範囲なので、紙媒体の方がいろいろなことをやっているということがもっと伝わるのではないかと思います。両方でやられた方がいいのではないかと私は思います。

小川生涯学習課長

紙での情報発信の重要性もあると思いますので、9種類全部というのは頻繁には難しいかもしれません、紙媒体も含めいろいろな媒体を活用して公民館活動をPRしていきたいと思います。このパンフレットで、他の地域の公民館活動を知っていただく機会にもなりましたので、そういったことが各公民館の活動を活性化する良い刺激になればと思っております。

○ その他（1）学びの多様化学校設置検討委員会からの答申について（学校指導課）

（説明の概要）今月5日、学びの多様化学校設置検討委員会から金沢市教育委員会に答申があった。答申の概要は別冊資料にある。

不登校児童生徒及びその保護者等へのアンケート調査を令和7年2月17～28日に行った。設問数は児童生徒42問、保護者38問となっている。

アンケート調査結果の抜粋を3～5ページに記載した。既に7月の総合教育会議でも概要をお伝えしたが、6ページに「調査結果を踏まえて」ということで、総合的にまとめたものを記載している。児童生徒の傾向として3点、保護者の傾向として3点、総論としては記載の3点について検討が必要であるとした。

それらを基に検討委員会で基本構想を作成した。基本構想は7ページ以降に記載している。大きく7点ある。

1点目は、校種についてである。中学生の方が学習や進路、将来に不安を感じている割合が高いことや中学校1年生から不登校が増加していることなどから、中学校から優先的に設置し、段階的に小学校へ拡大することとした。

2点目は、対象となる児童生徒についてである。金沢市立小中学校に在籍し、原則前年度に30日以上の欠席がある生徒、また欠席日数に限らず、自分のペースで取り組むことを望む生徒などを想定し、学びの多様化学校での学習活動を希望する生徒とした。

3点目は、立地環境についてである。通いたいときに通うことができる市内の中心部にある場所、金沢らしい町並みや文化、伝統を受け継いでいる場所などが求められることから、旧馬場小学校を活用することとした。

4点目は、施設や設備についてである。個々のニーズに応じて個別スペースや集団スペース、レイアウトを自由に変えられるスペースの設置、木のぬくもりがあり流線型を多く取り入れた環境や校舎に入りやすい雰囲気などが求められることから、一人一人が自分の居場所を見つけ、環境面と心理面で安全・安心を実感できる空間にすることとした。

5点目に、教育課程等についてである。伝統や美術・芸術に触れる活動や多様な価値観・文化に触れる国際理解教育などの金沢らしい教科の新設、個別学習や一斉授業、オンライン授業など自分に合った学び方を選択できる個別最適な学びなどが求められることから、金沢らしい伝統文化や自然を生かしながら、自分らしさが發揮できる柔軟な教育課程とすることとした。

6点目に、人材確保についてである。個別のニーズに対応できるよう、専門性を備えた幅広い

教職員や支援員の配置、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの常時配置などが求められることから、多様な背景を持つ生徒に対してきめ細かに支援できる人材・人員を配置することとした。

7点目に、関係機関との連携についてである。芸術や伝統工芸などの金沢市独自の施設との連携、保護者の相談体制を充実させるための教育プラザや福祉部局との連携などが求められることから、教育プラザや福祉部局などの公的機関との連携や高等学校、大学、フリースクールなどの外部機関との協力により、生徒やその保護者の支援を行うこととした。

答申内容については、既に市長に報告している。今後の対応としては、基本構想に沿って、教育課程の編成などの具体的な仕組みの充実と生徒一人一人が安心して学びに向かえる環境整備を図るとともに、学校の設置者である市長とも協議し、早期の開校に向けて準備を進めたいと考えている。

櫻吉委員

先日、行政視察でいわゆる成功例を見せていただいたと思うのですが、そこで感じたのは、確かにハード面や教育課程など枠組みをつくること非常に大切なだけれども、結局は関わる先生が一番大切なのではないかということです。多様化学校ができて、いろいろな先生が集まって、いわゆる専門家をそこでつくって、その先生方がまた地域に転勤していくことになると思うのですが、地域に戻ったときにそこの核となって、不登校の子を減らす、最終的には多様化学校が不要になる社会をつくることが最終目標なのではないかと思います。そうなると、先生方をそこでいかに育していくかということも非常に大切なではないかとそのとき思いました。こうした学校体制をぜひつくっていただきたいと思います。意見です。

貞廣学校指導課長

櫻吉委員がお話しされたことが、まさに本日の答申の「はじめに」で学びの多様化学校設置検討委員会委員長の藤平先生が書かれている1番に当たると思っています。「『学びの多様化学校』を布石として、最終的には通常の学校のあり方を問いかける」の内容の最後に、「最終的には、通常の学校を含めた市内すべての学校を魅力ある学校にすることを期待したい」という形で締めくくられています。学びの多様化学校を一つの布石としながら、通常の学校の対応等についても見識等を深めていきたいと考えています。

長澤委員

私も視察に参加して、先生がおっしゃっていた言葉で思い出すのは、「思い出が生きる力になっている」ということでした。そして「ここに通ってくる子どもたちは、小学生のときにほとんど学校に通えていなくて思い出がなく、私たちは思い出がないような子どもたちを少しでも減らすために努力している」とおっしゃっていました。私たちは普段何も意識はしていないけれども、私たちが学校生活で経験したさまざまな思い出が今の私たちを支えているのだなということを感じています。ですので、学びの多様化学校でも多くの学校行事を取り入れると書いてありましたし、学校行事に限らず学校生活の中で子どもたちがたくさん思い出をつくってもらえるように頑張っていただけるとありがたいと思います。

また今のお話の中で、1ページ目の1番、「学びの多様化学校」を布石として通常の学校の在り方も問うていくというのは、私も非常に興味を持って読んでいました。

最近、『タブレットは紙に勝てるのか』という、学習教材としてのタブレットと紙による素材のどちらが良いかということを具体的なデータを基に研究している本を読んでいたのですが、タブレットの良さはさまざまな映像や資料など多くの情報が入っていて、それに興味を持ったときに自分で触ることができるという点にあり、子どもたちが興味を引きつけられるのは紙にはかなわない良さだと述べていました。一方で紙は、とても読みや

すぐ、下線も引けるし、文章も理解しやすいし、理解する素材としてはタブレットを凌駕するものがあります。ですので、それぞれに良いところがあるので、良いところは併用しながら取り入れていく方がよいのだろうと思いました。

学習に慣れていない子どもたちにとっては、タブレットはとても有効な教育素材なのだろうと思いますので、学びの多様化学校では、タブレットの可能性を追求するようなところを考えていただき、またその研究の成果が通常学校でも教材としての使い方として生かしていくのではないかと思いました。

以上

会議録署名

教育長 署名

教育委員 署名

(丸山委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第20号 金沢市社会教育委員の委嘱等について（生涯学習課）

審議結果についても非公開

以上